

大河原町まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策、交付金事業の効果検証まとめ

基本目標	施策	主な取り組み内容	施策の方向性	主な実施内容	目標値H27→ 現状値H30	達成 状況	現在の取組状況	
1. しごとをつくり、安心して働けるようにする	(1)雇用を増やす体制づくりを支援	①企業誘致活動の強化	県などと協力し、パンフレット等を活用しながら、工業団地のPRを図り企業誘致につなげる。	工場用地取得及び造成・売却を行い、新工場操業につなげたほか、首都圏に本社のある企業へ情報提供を行った。	企業参入2社 →4社 産地交付金活用 団体等3団体 →3団体1個人	○	継続中	
		②町「企業立地促進制度」のPR強化	お知らせやチラシ等を作成し、各所に設置するとともに、企業訪問等も実施し、制度の周知と利用企業の増加を図る。	町内に事業所を立地する企業に奨励措置を行い、事業所の立地促進、産業の振興と雇用拡大を図った。			継続中	
③商店街の空き店舗の活用支援施策の検討		商工会や商店街（組合）等と連携し、新規起業等の希望者に、商店街などの空き店舗の情報提供や創業費用の一部を支援する。	商工会と連携し、空き店舗の有効活用、カード事業、地域振興事業、創業支援事業等を実施した。	継続中				
④就農希望者を呼び込み、遊休農地とのマッチング促進		就農希望者への情報発信強化とともに、遊休農地を把握し、農地を使いたい人と売りたい（貸したい）人のマッチングを図る。	遊休農地の利用意向調査結果を基に農地中間管理機構や農地中間管理を行うマネージャー活用し推進を図った。	継続中				
⑤新たな特産物づくりと6次産業化を支援		各種支援制度の情報提供、農家間連携の支援とともに、産地交付金を活用し、特色ある農産物の産地化や高付加価値化を促進。	枝豆及びたまねぎ栽培農業者を交付金の交付などにより支援し、栽培面積増加や品質向上、収量増加を図り、特産化を目指す。	継続中				
⑥新たな起業、第二創業に対する支援制度を検討		新規起業や第二創業促進のため、商工会等の関連機関と協力し「創業支援事業計画」策定及び新規起業に関する支援を検討。	商工会と連携し、創業支援関連事業として、経営改善事業、金融斡旋、労務対策や経営に関する相談、税務指導等を実施した。	継続中				
(2)働きやすい環境づくりの支援	①ワークライフバランスやワークシェアリングなどライフスタイルに応じた働き方の推進	ワークライフバランスやワークシェアリングなどの周知を図り、働く人に優しいまちづくりを啓発。「家族に優しい働き方支援助成金」制度等により子育て期短時間勤務制度の普及を図る。	国・県・関係機関との連携による制度の啓発を行った。	企業訪問数10件 →0件	—	廃止を検討		
2. 新しいひとの流れをつくる	(1)大河原町への来訪者を呼び込む	①通年観光に向けた観光振興の研究の推進	桜樹保護育成推進、通年観光活性化のため、地場産品PRや高付加価値化等、新名物づくりの取組みに対する支援施策を研究。	東北観光復興対策交付金を活用した「白石川堤『一目千本桜』ブランド化事業」を実施、通年観光に向けた取組みを展開した。	通年観光の目玉、新名物開発 1件→0件	—	継続中	
		②「まちの宝探し」による観光資源の発掘	郷土全体を見直し、町の個性と見られるものを再評価し、それを基にして観光資源化につなげる。	様々な町の個性（素材）を評価しながら進めたほか、登録文化財(旧家邸宅)を町内外に紹介する任意団体のイベントを支援した。	観光ボランティアガイドを養成10人 →18人	○	継続中	
		③観光ホフンディアガイドを養成し、来訪者へのおもてなしを強化	町民学園で町を知る講座を開催し、知識が備わった後に、観光客の対応を担っていただく観光ボランティアガイドを募る。	インバウンド観光ボランティア養成講座を開催。インバウンド対応実践英会話・中国繁体字語講座・案内マップ作製等を行った。	「情報発信し隊」30人養成→0人	—	継続中	
		④町民協働「情報発信し隊」の公的認定による情報発信の推進	町の情報を積極的に発信する人を組織化し、各メディアやSNS等に対応できる体制をつくとともに、情報発信の充実を図る。	観光物産協会法人化と共に情報発信の強化として、個人レベルの情報発信の繋がりを検討している。				
	(2)空き家活用による定住促進	①空き家バンクの整備活用	町ホームページに空き家情報サイトを整備して、移住希望者への情報提供ニーズに応え、空き地や空き家の流通促進につなげる。	住宅新築や貸家等も需要に見合っていることを踏まえ、当初の移住策としての空き家バンクの方向性について再検討している。	空き家バンクの登録件数10件→未整備	—	廃止も含めた内容検討	
		②国の移住ナビとの連携強化	移住サイト「全国移住ナビ」を活用し、仕事・住まい・観光などの情報を発信し、移住を希望する人へのアピールを強化する。	移住ナビに掲載する町の情報の更新を行うとともに、東京で開催された移住イベントに参加、移住先としての町のPRを行った。	移住サイト閲覧件数500件→400件	△	方向転換	
③移住者の空き家リフォーム支援		空き家バンクの整備後、空き家リフォーム支援制度を整備し、移住者の定住を促進する。（就農も含め）	空き家バンクと同様に、事業の方向性について再検討している。	制度利用10件 →未整備	—	廃止を検討		
3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(1)若い世代の結婚を促進する	①町全体での結婚支援プロジェクトの推進	パンフレット作成や町内で結婚したカップルにプレゼントするなど結婚促進施策を実施し、町全体で結婚への機運を高めていく。	本町の婚活を活性化させるため、イベント「ガワコン100」開催やオリジナル婚姻届・出生届等を作成した。	婚姻率(県内1位を維持)→5位	△	方向転換	
		②小中学校時に結婚、出産、子育てなど人生プランの学習機会提供	結婚、出産、子育てなどの補助教材を作成し、小中学生の段階からのライフプランのイメージ化と将来的な結婚促進につなげる。	妊婦や保育の体験授業や中学生対象「おおがわら夢未来会議」を開催し、町政への理解やライフプランを考える機会を提供した。			継続中	
	(2)安心して出産し、子どもが健やかに育つための支援	①子ども医療費の18歳までの無料化拡大、所得制限の撤廃	中学3年生までの医療費無料化を平成27年10月診療分から18歳まで無料化を拡大し、平成28年4月から所得制限を撤廃する。	18歳までの子ども全員の医療費無料化を継続し、子育て世帯への支援を行った。R1年度助成延べ件数見込み：約56,000件				継続中
		②第3子以降出生世帯への出生祝い金贈呈	第3子以降を迎えた多子世帯に対し、出産祝い金として10万円を贈呈、新生児に係る経費負担軽減とまちの少子化抑制を進める。	第3子以降の児童が出生した多子世帯に対し、児童1人当たり100千円の出産祝い金を支給。R1年度見込み：25件				継続中
		③妊産婦及び乳幼児がいる家庭へのサポート体制の強化	両親が参加できるイベント開催やマタニティマークを啓発し、父親の育児参加の促進と妊産婦及び乳幼児がいる家庭をサポート。	マタニティマークのキーホルダー配布や、スマホ対応子育てアプリ「母子モ」など、子育て家庭を応援するための事業を展開した。				継続中
		④産後の母子健康管理・育児ヘルプサービス事業の導入	産後、早期に助産師等が訪問し身体・精神面のサポートを行う。また、ヘルパー派遣など家事や育児・環境面でもサポートする。	全ての産婦と新生児対象の家庭訪問や、必要に応じ産婦と新生児の健康状態、生活環境の必要に応じ養育支援訪問を行った。				継続中
		⑤公共施設の土日開放による親子の交流の場を整備	世代交流いきいきプラザなど公共施設を土日開放することで、親子やあらゆる世代が集える場を整備する。	いきいきプラザ、中央・金ヶ瀬公民館、駅前図書館、総合体育館・東部屋内運動場を土日開放し、多世代間交流の場を提供。				継続中
		⑥三世帯同居用住宅新築・増築等助成制度の整備(在宅保育支援)	世代間で支え合う家族形態を応援するとして、三世帯同居用住宅の新築・増築に対し助成制度をつくる。	住宅新築や世帯数増加が続いており、施策の必要性について今後の状況で判断することとした。				廃止を検討
	(3)多様な保育環境を整備する	①子育て施設への備品等の充実を促進	町内の幼稚園等15施設に対し、遊具、絵本、楽器等の購入費用として定員数により配分。	各施設に設置した備品等について活用し、児童や保護者への理解を深めつつ子育て環境の向上について周知した。	保護者アンケート、事業実施後満足度4.0→3.4	△	終了	
		②民間活力の活用による多様な保育サービスの提供	民間小規模保育の設置促進や延長保育等多様な保育サービス充実、子育て支援団体等による親子参加型イベントを開催する。	延長保育、一時預かり保育の充実に努めているほか、新設予定小規模保育事業者と開設準備等の話を進めている。	住民満足度調査評価3.3→3.8⇒3.7	○	継続中	
		③ファミリーサポートセンターの設置	子育ての援助を受けたい方と援助を行いたい方を会員組織化して援助活動を行うファミリーサポートセンターの設置検討を行う。	ファミリーサポートセンターを開設、制度の周知と体制の整備に努めた。R1は報酬助成制度を開始し、利用負担軽減を図った。	待機児童数 0人 →40人(H30.10)	—	継続中	
		④「放課後子ども総合プラン(放課後児童クラブ・放課後子ども教室)推進	児童の放課後の居場所づくりと次代の人材育成、また多様な体験・活動ができる総合的な放課後対策を講じる。	南小・金小小学区では、放課後児童クラブと放課後子ども教室事業の連携体制が構築されている。大小学区も検討を進めていく。				継続中

大河原町まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策、交付金事業の効果検証まとめ

基本目標	施策	主な取り組み内容	施策の方向性	主な実施内容	目標値H27→ 現状値H30	達成 状況	現在の取組状況
4. 時代に合った(人口構成の変化等に合わせた)地域をつくり、安心な暮らしを守る	(1)「健幸」の実現のための環境づくりを進める	①「健幸」な暮らし方をまちづくり化し普及啓発	町民に心身が健康であることが幸せな暮らしにつながる理解の普及と、生きがい活動や健康増進活動を増やすまちづくりを目指す。	広報や各種教室等を通し、健康であることが幸せな暮らしに繋がる理解の普及に努めた。	歩く健康管理システム登録者1000→676人 運動・栄養教室等への参加者2000人→2050人	△ ○	継続中
		②健康増進「歩きたくなるまち」創造(景観改善を含め)	健康増進に「歩く」推奨のため健康管理システムを導入し、データ化等により動機付けを進める。景観改善等環境づくりも検討。	「歩いて健幸システム」の登録者を増加させるため、ウォーキング教室や体力測定、体分析など運動の継続を促す事業を推し進めた。			継続中
		③年代に応じた切れ目のない健康施策の推進	各年代に応じた運動・栄養教室を設け、健康年齢期間保持を目指す。また、生きがい活動による元気な高齢者づくりを支援する。	健康教室自主グループへの技術支援や高齢者対象のスポカフェ等、またNPO法人自主事業による健康運動教室を実施した。			継続中
		④中高年の健康分析の情報発信による健康増進啓発	国保被保険者が中心のデータを活用し、町内の年代ごとの健康分析を随時発信するとともに、健康増進情報を積極的に広報する。	第2期データヘルス計画」を策定、健康分析し、生活習慣病対策や重症化予防のための保健事業等へ活用している。			継続中
	(2)在宅で暮らし続けるための体制づくりを進める	①地域包括ケアシステムの整備準備	医療・介護・予防・住まい・生活支援サービスが一体的に提供されるしくみ「地域包括ケアシステム」の構築準備を進める。	在宅医療介護相談窓口や認知症初期集中支援チーム、認知症カフェ、生活支援コーディネーター(社会福祉協議会内)等を設置した。	介護予防サポーター5年間で100人→49人 認知症サポーター1800人→2298人 みまもりねっと登録者600人→644人	△ ○ ○	継続中
		②介護予防サポーター・認知症サポーターの拡大及び介護予防・認知症理解を深めるための普及啓発	介護予防サポーター(はつらつメイト)・認知症サポーターなどを増やし、介護予防や認知症に対する理解を普及啓発する。	介護予防サポーター養成講座や認知症サポーター養成講座開催を通じて介護予防や認知症に対する理解普及啓発を行った。			継続中
		③介護予防意識の啓発強化	介護予防の講演会、啓発物配布などを進めるとともに、予防実践を要する対象者に対し介護予防手帳による意識改善啓発も行う。	介護関連イベントや出前講座で住民への介護思想の啓発を行ったほか、介護予防手帳普及のため、介護職員への研修を開催した。			継続中
		④地域見守りネットワークの拡大	各種団体及び事業所などによる地域見守りネットワーク事業の拡大とともに「みまもりねっと」メール配信サービス充実を図る。	長寿みまもり隊活動の活発化を図り、IT機器を活用し「みまもりねっと」メール配信サービス(登録・配信)を充実させた。			継続中
		⑤介護家族慰労に対する表彰等の検討	在宅介護に長年たずさわった家族に対し、慰労の表彰などの検討を進め、地域社会での在宅介護の理解を広げていく。	検討を重ねた結果、地域の実情と一致せず、実施が困難であると判断し、事業を廃止する方針。			廃止を検討
		⑥ショートステイ整備支援による在宅介護の強化	介護家族の負担軽減、要介護高齢者の生活支援としてショートステイ整備に対し助成を行い、在宅介護を支える体制を強化する。	ショートステイの事業実施が見込めないため、廃止を検討している。			廃止を検討
		⑦三世同居用住宅の新築・増築等助成制度の整備(在宅高齢者支援)	要介護高齢者等を含む世代間で支え合う家族形態を応援するとして、三世同居用住宅の新築・増築等に対し助成制度をつくる。	住宅新築や世帯数増加が続いており、施策の必要性について今後の状況で判断することとした。			廃止を検討
	(3)地域課題の対応による安心な暮らしづくりを進める	①空き家実態調査による実態把握、特定空き家等対策の制度化	空き家の実態把握を行い、町内の空き家の状況を分析し、特定空き家等に対しては制度化を進め、対応を進める。	空き家対策計画を策定し、空き家所有者への状況の確認及び将来の利活用に関する意向を問うアンケートを実施した。	住民満足度調査「空き家等の対策」の評価点0.5ポイント増加2.8→2.3 組織・運営体制構築	— ○	継続
		②「(仮称)大河原大学」開校準備・研究	元気高齢者の活躍の場、観光や郷土学のほか結婚、子育て、介護予防、健康増進など将来を見据えた人材づくりの拠点とする。	中央公民館をリニューアルし、地域課題に対応できる担い手育成の拠点として「まちづくりルーム」の設置を行った。			終了
		③町内各所に防犯カメラ設置の検討	不審者出没や危険運転、空き巣、悪徳訪問、詐欺などから地域を守る抑止力として、防犯カメラが設置できるか検討する。	迷惑行為の発生件数が多い行政区の区長及び警察と協議し、具体的な設置場所や機種選定等、設置に向けて準備を行っている。			新年度実行
	5. 地域と地域を連携する	(1)講ずべき施策の広域的な取り組みの推進	①企業誘致活動の広域的取組に向けた組織等の検討	企業誘致は、広域市町が協力した誘致が効果的と考えられるため、取組や組織化等を協議するための場の設置を検討する。	県全体で取り組む「宮城県企業立地セミナー」(東京・名古屋)に参加し、情報収集・情報共有に努めた。	広域連携移住サイト閲覧件数1000件 広域連携婚活イベント開催数1件/年 広域ウォーキングコースの設定、近隣市町と合同ウォーキングマップ作成	— — —
②ワーク・ライフ・バランスの広域的な取組の検討			周辺市町に対する啓発活動の必要性に対する理解を求めながら、広域的な取組の可能性を探るための場の設置を検討する。	国・県・関係機関との連携による制度の啓発を行った。	方向転換		
③広域連携による移住・定住情報サイトの設置検討			移住者からみると広域の周辺状況を含めた情報が判断材料になることから広域連携で移住・定住サイトの立ち上げの検討を行う。	県の移住サイト設置により、本町の情報が掲載されることになったことで、広域連携という当初の目的は達成できた。	終了		
④広域的組織「婚活プロジェクト」の設置検討			企画の多様化を図るため、様々な職種や年齢層に対する婚活を企画する広域プロジェクトを検討する。	広域的な取り組みの前に、本町の婚活を活性化・継続させる必要があるため、婚活イベント等を行った。	方向転換		
⑤広域ブランドによる観光物産振興の検討			観光物産振興のためには、広域ブランドにより、全国に広告する必要がある。周辺市町との組織化・共同事業化の可能性を探る。	「仙台・宮城観光キャンペーン」や「みやぎ仙南サイクルリズム推進会議」、「みやぎ蔵王ハーモニー花回廊推進協議会」で連携事業を推進。	継続中		
⑥広域エリアのウォーキングコースの設定			「歩きたくなるまち」による健康増進目的のウォーキングコースを近隣市町と設定、より魅力あるウォーキングエリア拡大を図る。	広域的な取り組みの前に、町内のウォーキングコースの認知度向上のため、町ホームページや広報紙等への掲載を行った。	⑤と統合		
⑦環境政策を進める広域的組織整備の検討			地球温暖化など環境問題に対し、再生可能エネルギー等の環境政策を広域的に普及・促進できる組織の整備を検討する。	県全体で推進する環境施策に足並みを合わせ、広域的な取り組みは観光連携を優先して進めていくこととした。	方向転換		
加速化交付金事業	健幸都市おおがわら・「歩きたくなるまち」創造事業	健康長寿を目指し、「歩く」ことを中心にした日常的な運動普及により、健康寿命の延伸につなげる。	①「歩いて健幸システム」導入・運営・イベント開催 ②公園内健康遊具設置 ③健康増進事業・運動啓発事業委託 ④「歩きたくなるまち」創造事業プロジェクトの実施 ⑤運動啓発印刷物制作	40歳以上の町民に対し、歩数計を活用するシステムを導入するなど、歩くことを中心にした運動を啓発することで、健康増進の意識が向上し、元気な高齢者づくりにつなげた。	システム登録300人 運動教室参加者年延べ1,800人	300人 2224人	終了
拠点整備交付金事業	にぎわい創出中央公民館複合化事業創造事業	中央公民館をリニューアルし、仕事や交流、生きがい、まちのにぎわい創出の拠点施設をつくる。	①観光情報発信、案内、物販「観光ルーム」②起業・創業支援「商いルーム」③食を中心とした活性化とにぎわいおこしの場「にぎわいルーム」④住民活動支援、人材育成「まちづくりルーム」	仕事と観光、生きがいづくりの拠点施設として整備したもの。工事の進捗遅れにより事業開始がずれこんだが、観光物産協会への来客や人材育成は順調に増加している。	観光客数3,000人 創業起業数7件 人材育成30人	587人 0件 15人	終了